

どおやま長者

《小 中》

小中麦久内入口、どおやま(銅山?)という山がある。昔、ここに「どおやまどおざん」という長者が住んでいたといわれている。

このどおやまは長者屋敷の築山で、前の広い所には家があった、山の裏の池は泉水で、今はこの、沢の池は田園の貯水池になっている。

この長者は風流な人で、毎日、牛に乗って笛を吹きながらこの山の峯を登り、大高山(高台山)まで登ったといわれている。長い年月登っている内に、途中で倒れて、死んでしまつて、そのまま石になったという。今でもその石を牛石と呼んでいる。

ここには、また長者が宝を埋めた所があるという。その宝が埋めてある所を示す唄がある。

朝日さす夕日輝くたんぼの木の下に 黄金千倍二千倍
しかし、宝のあるその場所は今もわかっていない。

どおやま長者屋敷跡



(話者 八木沼勝美)